

2023年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	国際版画美術館	歳出目名	国際版画美術館費
			事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)	

1.組織概要

組織の使命	優れた美術作品に触れる機会、および学習、創作、発表を通して美術に親しむ機会と環境を提供します。また、貴重な文化財である版画作品を収集・保管し、市民の財産として未来に伝えます。				取り自治体等の	国際版画美術館は版画に特化した世界的にも珍しい美術館であり、版画の鑑賞ばかりでなく、版画制作や美術作品の展示といった利用も可能です。なかでも版画制作を行う版画工房を一般に開放している公立美術館は、近隣では横浜美術館のみですが、2021年3月1日から2024年3月14日まで改修工事のため休館していました。			
所管事務	◆美術作品等の収集、保管及び展示、講演会等の事業の企画及び実施に関すること。◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること。◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること。								
基本情報	根拠法令等 町田市立国際版画美術館条例								
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称		町田市立国際版画美術館		
	利用料金収入 (単位:千円)	20,210	20,253	22,491	建設年月日		1986年8月1日		
	受益者負担比率	5.9%	5.8%	6.5%			2021年度	2022年度	2023年度
					有形固定資産減価償却率		35.6%	36.9%	38.2%

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆2021年度よりも来館者数が約42,000人増加しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準までは回復していません。今まで以上に幅広い層に魅力が伝わる展覧会を開催するほか、オンラインプレスリリースによる広報やSNSの積極的な活用など、様々な手法により国際版画美術館の魅力を情報発信し、来館者の増加につなげる取り組みが必要です。◆行政収入の増加に向けて、助成金などの積極的な獲得が求められています。◆多くの人に訪れてもらうため、美術館へのアクセス方法やキャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、オンラインプレスリリースを活用するなど、引き続き来館者数の増加に向けた広報活動に取り組みます。◆大型企画展以外の展覧会を含めたすべてのシルバーデーで無料シャトルバスを運行いたします。		◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修や修繕工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。	
取組状況	○ ◆X(旧Twitter)およびInstagramを活用し、SNSでの情報発信を2022年度374回から152回増やし、526回実施いたしました。◆企画展すべてでオンラインプレスリリースを活用いたしました。◆来館者の増加に向けた広報活動やシャトルバスの運行に取り組みました。展覧会開催中の土日祝およびシルバーデーを対象に56日運行し、延べ4,526人の利用がありました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	目標	93,000	96,000	110,000	93,000	93,000	企画展および特集展示の観覧者数の合計
		実績	93,170	108,844	119,027		(2024年度)	
観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入	千円	目標	22,000	22,500	22,500	25,947	25,947	企画展観覧料、施設使用料、特別観覧手数料の合計額
		実績	20,210	20,253	22,491		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2023年度は6件の企画展と5件の特集展示を開催しました。年間の展覧会観覧者数は、2022年度より約10,000人増加し目標を達成しました。また観覧料や特別観覧手数料などの収入も2,238千円増加しました。◆ミュージアムショップの取扱品目を増やし販売が好調だったこともあり、物品売払収入が2022年度より2,114千円増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	124,138	124,506	114,802	△ 9,704	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	8,265	9,912	7,090	△ 2,822		保険料	0	0	0	0
	物件費	131,841	146,216	156,089	9,873		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	96,711	105,864	108,283	2,419		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	2,623	3,345	5,102	1,757		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	20,210	20,253	22,491	2,238
	補助費等	4,199	3,445	3,954	509		その他	9,486	11,696	13,711	2,015
	減価償却費	56,285	56,285	56,285	0		行政収入 小計(a)	29,696	31,949	36,202	4,253
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 313,568	△ 318,591	△ 309,976	8,615	
	賞与・退職手当引当金繰入額	24,178	16,743	9,946	△ 6,797	金融収支差額(d)	△ 214	△ 190	△ 167	23	
	行政費用 小計(b)	343,264	350,540	346,178	△ 4,362	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 313,782	△ 318,781	△ 310,143	8,638	
	特別費用(g)	2,689	0	0	0	特別収入(f)	0	0	10,133	10,133	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 2,689	0	10,133	10,133	当期収支差額(e)+(h)	△ 316,471	△ 318,781	△ 300,010	18,771	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	総合管理委託料 77,054千円 光熱水費 13,727千円 備品修繕費 11,112千円 など	事業協力謝礼 1,777千円 講師謝礼 636千円 「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金 847千円 など
主な増減理由	光熱水費が4,988千円減少。備品修繕費が10,915千円増加 など	展示作品の出陳謝礼などにより事業協力謝礼が619千円増加。「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金の返礼額減少により148千円増加 など
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	雨水配管修繕 1,045千円 空調制御機器修繕 935千円 自動ドア及び扉交換修繕 813千円 など	物品売払収入 7,695千円 芸術文化振興基金助成金 3,000千円 受託販売収入 871千円 など
主な増減理由	高額な修繕対応が発生したことから1,757千円増加。	図録の販売強化により図録販売代が1,939千円増加 など

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2023	171,406	2,020	△ 61	年間の入館者数が増加したため、入館者1人あたりのコストは2022年度よりも61円減少しました。
		2022	168,475	2,081	△ 644	
		2021	125,988	2,725	△ 407	
開館1日あたりコスト	日	2023	307	1,127,616	△ 17,940	人件費および賞与・退職手当引当金が減少したことから、1日あたりのコストが2022年度よりも17,940円減少しました。
		2022	306	1,145,556	△ 102,677	
		2021	275	1,248,233	△ 103,505	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目			
2022年度末				2023年度末			
A				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	未収金	0	0	流動負債	23,092	22,913	△ 179
	不納欠損引当金	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0		地方債	12,967	12,967
					賞与引当金	10,125	9,946
					その他の流動負債	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	1,016,284	960,427	△ 55,857	固定負債	189,732
		土地	0	0	0		161,228
		建物(取得価額)	2,258,181	2,258,181	0		△ 28,504
		建物減価償却累計額	△ 1,504,909	△ 1,560,766	△ 55,857	地方債	86,308
		工作物(取得価額)	263,012	263,012	0		73,342
		工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	103,424
						その他の固定負債	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	212,824
							184,141
							△ 28,683
インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産	2,520,916	2,499,522
	土地	0	0	0			△ 21,394
	工作物(取得価額)	0	0	0			
	工作物減価償却累計額	0	0	0			
	無形固定資産	0	0	0			
	建設仮勘定	0	0	0			
	その他の固定資産	1,717,456	1,723,236	5,780	純資産の部合計	2,520,916	2,499,522
							△ 21,394
資産の部合計				2,733,740	2,683,663	△ 50,077	負債及び純資産の部合計
					2,733,740	2,683,663	△ 50,077

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	美術館 2,258,181千円	屋外彫刻4点 263,012千円	収蔵美術品 1,623,236千円 定額運用基金 100,000千円
主な増減理由	減価償却により、55,857千円減少。	美術工芸品類は減価償却対象外資産。	収蔵美術品購入により2,709千円増加、受贈により3,500千円増加。

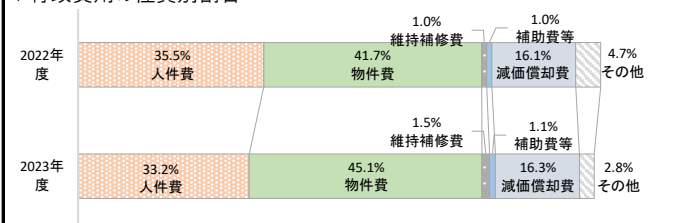
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	36,202	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	295,644	社会資本整備等投資活動支出	2,709	財務活動支出	12,967
行政サービス活動収支差額(a)	△ 259,442	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 2,709	財務活動収支差額(c)	△ 12,967
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 275,118
				一般財源充当調整額	275,118

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



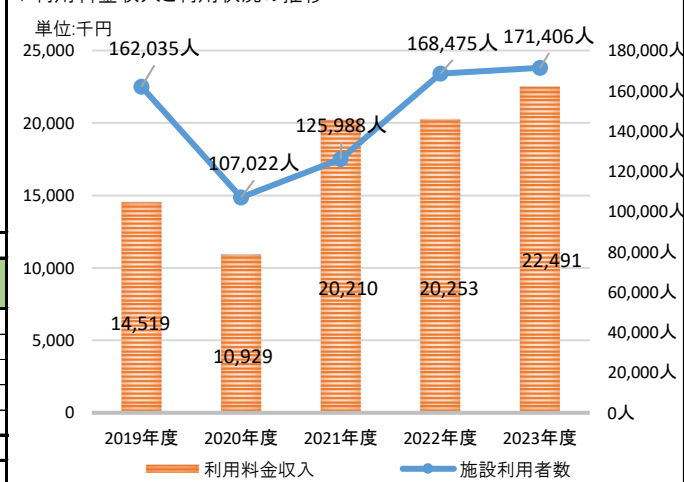
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
管理事務	4.9	0.3	0.1	5.3	6.2		
展示事業	3.4	1.0		1.2	0.2	5.8	6.3
ハイビジョン事業						0.0	0.0
普及事業	2.7			0.7	0.6	4.0	4.2
						0.0	0.0
2023年度 歳出目 合計	11.0	1.0	0.0	2.2	0.9	15.1	16.7
2022年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	1.0	2.7	16.7	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆企画展においてYouTubeおよびニコニコ動画で著名な方と展示解説の対談を行うなど、多数の幅広い層に向けて版画に興味を持ってもらえるようプロモーション活動を行った結果、年間の展覧会観覧者数が約9%増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆プロモーション活動等により、観覧料収入が12,518千円から15,176千円となり、2022年度に比べ約21%増加しました。
◆企画展の内容に合わせて発行した図録の売り上げが好評であったことに加え、過去に刊行した図録を購入しやすい価格で販売する企画を展開するなどして、図録販売代金は2022年度に比べ約46%増加、約193万円の増収となり、行政収入の増益及び適切な在庫管理につながりました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆施設利用者数が2022年度よりも約2,900人増加し、新型コロナウイルス感染症流行前の活況に戻りました。SNSの積極的な活用などを通じて平素から美術に親しみのない層にも版画に興味を持ってもらい、国際版画美術館の魅力を情報発信して、来館者の満足につながる取り組みを図ることが肝要です。◆観覧料やミュージアムショップでの支払い等の利便を図るため、キャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想に基づき、より多くの方々に芸術に親しむを持ってもらえる施設にする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、収蔵品を活用した魅力ある展覧会になるよう取り組みます。◆キャッシュレス決済の導入により、施設利用者の利便を考慮した施設になるよう検討します。	◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修や修繕工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。

2023年度後期 作品収集状況

以下の作品が、2024年2月7日開催の2023年度第2回美術資料収集委員会で承認され、収蔵されました。

◇寄贈作品			
No	作品概要	作品点数	評価額(円)
1	野見山暁治	34	1,400,000
2	平野杏子 版画作品	42	968,000
3	門坂流《冬の岩塊(赤岳稜線)》	1	200,000
4	集治千晶版画作品	5	580,000
5	エミール・ツビンデン版画作品	14	500,000
6	エミール・ツビンデン《リエヌヌのダム》	1	50,000
7	フランチェスコ・クレメンテ《空》他1点	2	280,000
8	第48回全国大学版画展 町田市立国際版画美術館賞	8	80,000
合計		107	4,058,000

2023年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

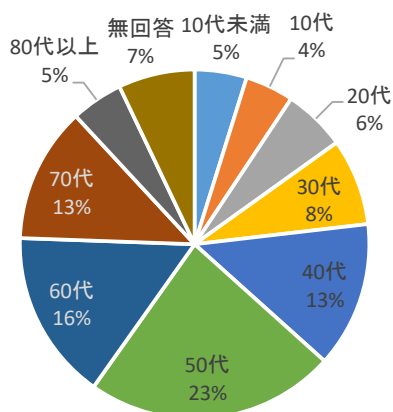
展覧会名	楊洲周延—明治を描き尽くした浮世絵師			担当者名	宮崎 黎			
会期	2023年10月7日(土)～12月10日(日)			開催日数	55日間			
協賛・後援・協力	芸術文化振興基金(助成)							
巡回館	なし							
展覧会概要	楊洲周延(ようしゅうちかのぶ・1838-1912)は、幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師である。周延による作品は教科書や歴史資料集等に度々掲載されるが、彼の活動があまりに広範であったため、長らく全貌は知られていなかった。総数330件の作品を展示することで、彼の画業を総覧し、全体像を浮かび上がらせた。							
ねらい・対象	当館には周延作品が200点以上収蔵されており、従来より代表作として知られるシリーズも含まれる。これら作品の歴史上における位置付けを明確化すること、そして楊洲周延の存在を認知してもらうことを目的とした。動乱の時代である幕末から明治時代に関心を持つ高齢層を対象とした。							
関連催事	催事名		開催日		タイトル		講師等	参加者数
	講演会① (ゆうゆう版画美術館まつり関連イベント)		10月22日(日)		「楊洲周延—江戸と明治の架け橋—」		村瀬可奈 (東京国立博物館研究員・元国際版画美術館学芸)	63
	講演会②		12月3日(日)		「周延と明治の浮世絵」		大久保純一 (国際版画美術館館長)	91
	赤ちゃんのための鑑賞会		11月15日(水)		赤ちゃんのための鑑賞会		富田めぐみ (NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)	16
	ギャラリートーク		10月28日(土) 11月25日(土)		担当学芸員によるギャラリートーク		担当学芸員	59
	プロムナードコンサート		11月4日(土)		フルートとピアノで巡る明治の風景		河野彬(フルート)、高橋ドレミ(ピアノ)	165
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日				
	900 円	450 円	無料	・初日:10/7・文化の日:11月3日 ・シルバーデー(満65歳以上無料):10/25、11/22				
	有料計		無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,553 人		3,230 人	8,783 人	8,369 人	231 人	183 人	0 人
	目標値		10,314 人					
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	4,065 千円		2,145 千円		520 千円		3,000 千円	
事業経費	・講師謝礼						205 千円	9,981 千円
	・事業協力謝礼						734 千円	
	・設置・撤去委託料						3,317 千円	
	・作品額装委託料						499 千円	
	・広告・宣伝委託料						627 千円	
	・ポスター等作成委託料						3,617 千円	
	・ディスプレイ作成委託料						880 千円	
	・イベント企画運営委託料						102 千円	
主な広報・取材等の講評	【テレビ】イツ・コミュニケーション、NHK日曜美術館アートシーン 【新聞】日本経済新聞、新潟日報 【雑誌】時空旅人2024年1月号 【ウェブ】アートコレクターズ、ぴあ、ウォーカープラス、美庵、美術展ナビ、スマートフォンほか							

「楊洲周延」 展 アンケート集計結果

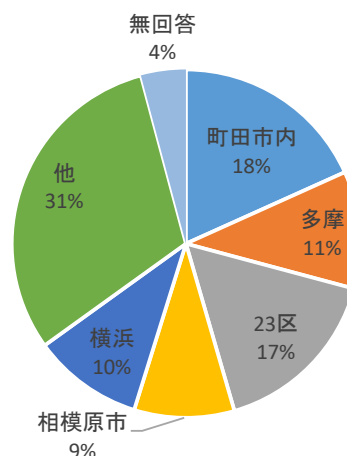
開催期間：2023年10月7日（土）～12月10日（日）

回答者数： 312 人（総入館者数：8783人 アンケート回収率： 3.5%）

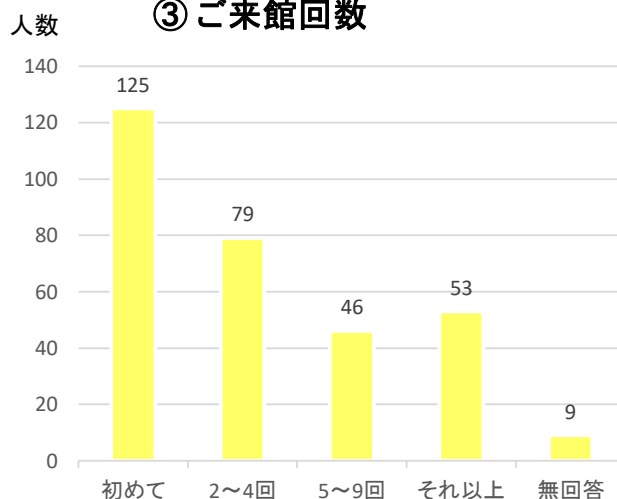
① 年齢層



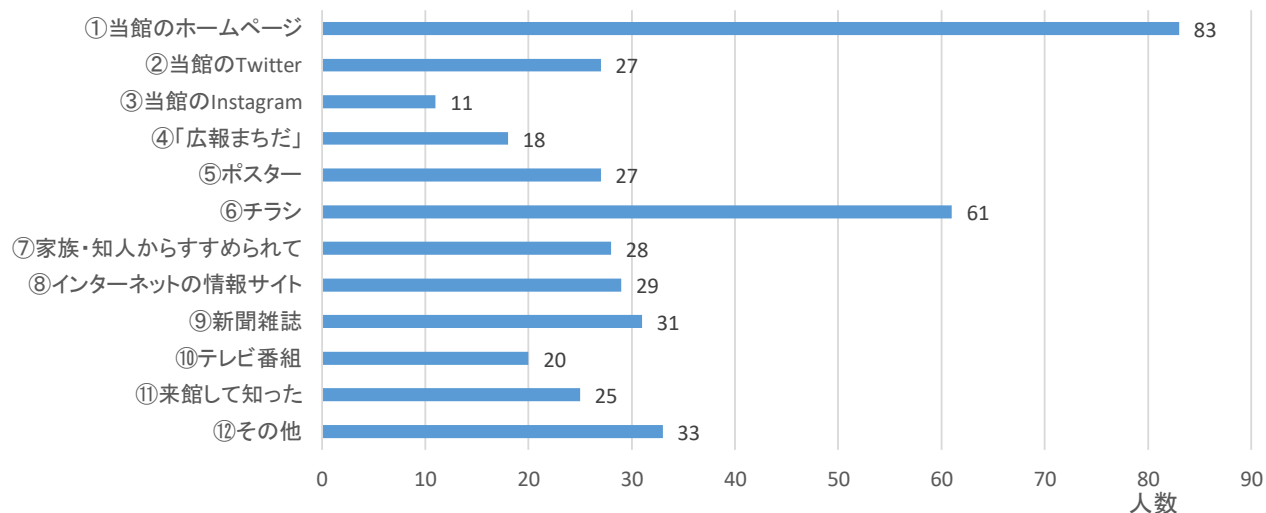
② お住まい



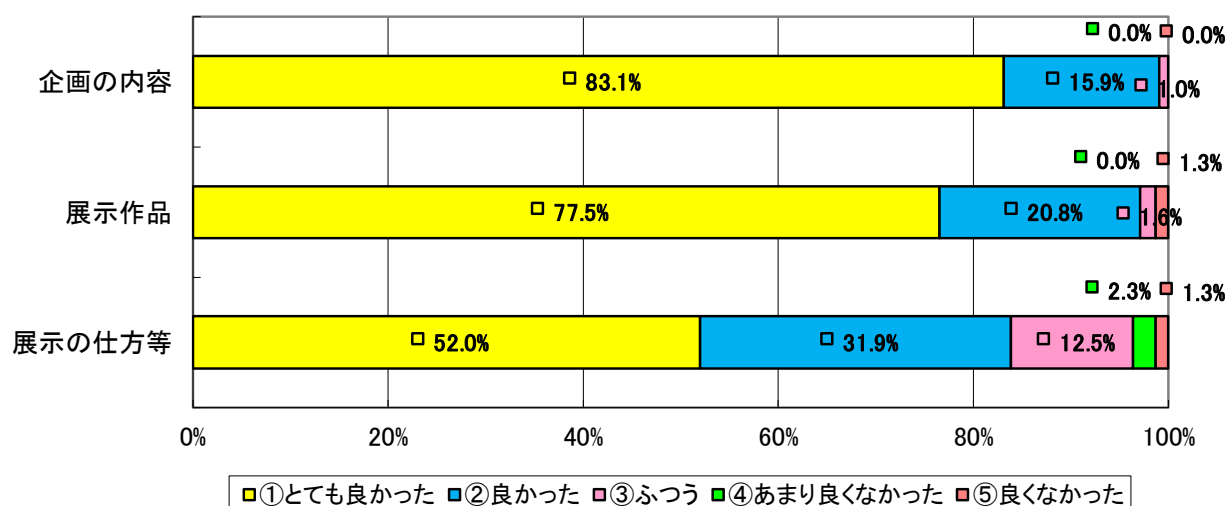
③ ご来館回数



展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

- ◆町田に来たのも初めてで、館の外の雰囲気も楽しんだ。
- ◆町田市に美術館があるとは知らず、熱量の高い展示に驚いた。
- ◆町田ならではの企画展ですばらしいと感じた。
- ◆時代・テーマごとの展示が分かりやすく良かった。
- ◆展示数が想像より多くて見ごたえあった。珍しい作品もみられてよかった。
- ◆展示内容もとても良く、会場内職員の接遇が丁寧で、ゆったりと作品を楽しめた。
- ◆とても静かで見やすい展示でよかった。
- ◆楊洲周延の作人をメインに観たのが初めてで、楽しく鑑賞できた。
- ◆絵画のよさと、歴史的な背景を同時に知れることができた。
- ◆明治時代の版画で用いられた細かい技法に感激した。
- ◆状態のよい作品を多く見られる機会はないので、ありがたい展示であった。
- ◆明治に入って世間のあれこれが変わる最中、様々な題材を描いたそのバックグラウンドまで興味深く見る事ができた。
- ◆図録も目一杯大きいサイズでありがたかった。
- ◆楊洲周延の画業の変遷がよくわかって非常に勉強になった。
- ◆新潟に行かなければ観ることが叶わないと思っていた肉筆画、そして手紙がみれて本当に嬉しかった。

以下は要望等の意見

- ◇作品の関係上仕方ないのだろうが、照明が暗く、ガラスに反射して見づらい所があった。
- ◇近代～現代の版画をもっと観たい。新しい作家を取り上げてほしい。
- ◇説明文をもう少し大きな書体にしてほしい。
- ◇会場内にシャッター音が響いて気になるため、全作品を撮影禁止にしてほしい。

2024年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	版画の青春 小野忠重と版画運動 ―激動の1930―40年代を版画に刻んだ若者たち―			担当者名	滝沢恭司			
会期	2024年3月16日(土)～5月19日(日)			開催日数	56日間			
協賛・後援・協力	特別協力：和歌山県立近代美術館							
巡回館	なし							
展覧会概要	昭和期に活躍した版画家であり版画史研究者でもあった小野忠重(1909～1990)を中心に1932年に結成された「新版画集団」、その発展的グループとして1937年に結成され、戦後1950年代まで活動を継続した「造型版画協会」、これらのグループによる版画運動の諸相を小野忠重の旧蔵品を中心とした約300点の作品によって紹介、見直した。第一部で新版画集団、第二部で造型版画協会に関して展示し、第一部は第1章(2節に分類)、第2章(2節に分類)で構成した。第二部は全3章で構成した。また全体で6つのコラム展示を設け、2つのグループの関心や課題意識が見える化した。							
ねらい・対象	「新版画集団」と「造型版画協会」という2つの版画グループの運動の諸相を探り、激動の1930～40年代という時代に版画に熱中した青年たちが、如何にこの時代を超えようとしたかを考える。また、明治期終わりに登場し、まだ30年にも満たなかった「創作版画」の、いわば「青春期」を振り返る機会とした。							
関連催事	催事名		開催日	タイトル		講師等	参加者数	
	記念講演会		4月14日(日)	1930年代日本の版画 小野忠重と藤牧義夫を中心に		原田光(無言館手伝い／元岩手県立美術館館長)	41	
	鼎談(ていだん)		4月28日(日)	知られざる版画運動 新版画集団と造型版画協会の若き版画家と作品		三木哲夫(兵庫陶芸美術館名誉館長)／西山純子(千葉市美術館学芸員)／滝沢恭司(国際版画美術館学芸員)	47	
	子ども講座(鑑賞・創作)〔普及係〕		3月30日(土)	子ども講座 ―みてみてつくろう―		杉浦幸子(武蔵野美術大学芸術文化学科教授)／上村牧子(国際版画美術館学芸員)	24	
	プロムナード・コンサート		4月27日(土)	ピアノの音色で蘇る記憶		塩谷運(ピアニスト)	153	
	ギャラリートーク		3月17日(日)／ 4月21日(日)	学芸員によるギャラリートーク		滝沢恭司(国際版画美術館学芸員)	57	
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日				
	900 円	450 円	無料	・初日：3/16 ・開館記念日：4/19 ・シルバーデー(満65歳以上無料)：3/27、4/24				
	有料計		無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,117 人		2,128 人	5,245 人	4,825 人	270 人	150 人	0 人
	目標値		9,812 人					
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	2,235 千円		1,132 千円		355 千円		― 千円	
事業経費	・講師謝礼					136千円		
	・事業協力謝礼					300千円		
	・著作権使用申請委託料					62千円		
	・設置・撤去委託料					3,096千円		
	・作品額装委託料					978千円		
	・広告・宣伝委託料					629千円		
	・ポスター等作成委託料					3,074千円		
	・ディスプレイ作成委託料					979千円		
	・イベント企画運営委託料					60千円		
主な広報・取材等	【テレビ】イツ・コミュニケーション、多摩テレビ							
	【新聞】読売新聞、3月7日「創作版画「青春期」たどる」／読売新聞(夕刊)4月3日「アートの葉」ほか 【雑誌】美術の窓、月刊美術、版画藝術、江戸楽、散歩の達人、ぜんび(全美連)、歴史街道 ほか 【ウェブ】美術手帖、note、アメーバブログ、イロハニアート、アートスケープ、PHOTOSAI、個展なび、美術散歩、Sfumart、アートアジェンダ、IM(インターネットミュージアム) ほか							

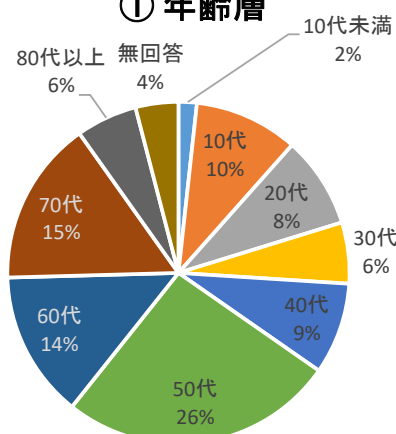
	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
アンケート結果	173 件	3.3 %	24 %	68 %	94.7 %	92.9 %	81.1 %
	主なご意見	別紙参照					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	展覧会の構成や出品作品を決めるにあたり、以下の機関、個人を訪れ調査をおこなった。和歌山県立近代美術館、福島県立美術館、東京国立近代美術館、神奈川県立近代美術館、版画堂、山田書店、小野忠重遺族。このうち小野忠重遺族方には2023年6月と9月に訪れ、小野忠重旧蔵の関連作品と資料を大量に借用、国際版画美術館に運搬して収蔵庫で調査にあたった。また、新版画集団、造型版画協会のメンバーだった清水正博の旧蔵作品を多数収蔵する和歌山県立近代美術館に2回出張し、多数の作品・資料の調査を行った。					
	作品選択	新版画集団と造型版画協会の作家、夫々の出品作品の傾向、活動を伝えることを目指して二部構成とし、第一部を第1章(全2節)、第2章(全2節)、第二部を全3章で展示構成することを決めた。また、全体で6つのコラムを設けた。このような構成に従って可能な限り多くの作家を選び、その作家の作品傾向が分かる展示を心掛けた。結果的に約40名の作家を取り上げることができ、最終的に出品点数は300点を超えた。そのなかで小野忠重や藤牧義夫、水船六洲、斎藤清など重要な作家については出品点数を多くし、それ以外の作家は内容から判断して点数を絞り込んだ。グループの活動や運動の実態を理解するために、作家や作品を多く展示することでボリューム感のある展示となった。					
	図録	A5変形192頁の展覧会図録を1200部作成。各コラムに出品した作品は一部掲載としたが、それ以外の本編で展示した作品の図版は全て掲載した。掲載にあたっては、著作権がある作家についてその継承者を調査し、判明した人全てに掲載許可を申請した。前付けに、展覧会担当者による新版画集団と造型版画協会の全体像が把握できるテキストを掲載、カラー図版の頁には、章・節・コラムの解説を付した。また、後付けに作家解説、兵庫陶芸美術館名誉館長による「新版画集団・造型版画協会関連年表1931～58」「『新版画』所収版画一覧」「新版画集団・造型版画協会展出品目録」を掲載した。最後に出品作品のリストを掲載。全体として資料的価値の高い展覧会図録となったと考えている。					
	広報	ちらし32,000枚、ポスター1,000部作成。2つのグループを紹介する企画展とあってメインビジュアルの作成に苦労した。最初は複数の作家の図版で構成する予定であったがデザインが思わしくなく、最終的に小野忠重の《ジャズを廻る人々》1点を使用してメインビジュアルとした。ちらし裏面には6名の作家の作品図版を掲載して出品作品のイメージを伝えた。市内公立小中学校、各地区センター、全国的美術館など約700カ所に送付。また、国際版画美術館公式サイトに詳細な展覧会情報をアップ。そのほか展覧会やイベント、作品解説などについてSNSへ積極的に投稿、市長記者会見出席、広報まちだへの掲載、内覧会の実施(プレス内覧会含む)など多角的に広報を展開させた。					
	宣伝	さまざまな電子機器で情報入手することが一般化した現況下でより効率的かつ効果的に美術関係者へ情報が届けられるために、特定のウェブサイトから関係者がプレスリリースや画像をダウンロードできるオンライン・プレスリリースを関係事業者に委託した。また、株式会社アートビートに委託し、同社が運営するポータルサイトtokyo art beat!にレビュー記事を掲載してもらい、SNSも配信してもらった。レビュー記事は神奈川県立近代美術館館長の水沢勉氏による熱のこもったインパクトのある記事が掲載された。					
	ディスプレイ	出品点数が多く、また額装作品、冊子作品があり、展示空間の構成を工夫する必要があった。第一企画展示室に第一部の作品を展示し、第二企画展示室に第二部の作品を展示し、可能な限り動線も分かりやすかった。しかし、点数が多かったこと、壁展示・ケース展示が入り組んでいたこと、6つのコラムをところどころに挿入したこと、所蔵する可動壁を全て使用して展示空間をつくったことなどから、動線が分かりにくかったというアンケート回答も見られた。章・節・コラム(以上和英バイリンガル)、作家解説なども展示した。					
	イベント	関連イベントとして原田光氏(無言館手伝い、元岩手県立美術館館長)による講演会、三木哲夫氏(兵庫陶芸美術館館長)、西山純子氏(千葉市美術館学芸員)、本展企画担当学芸員による鼎談を開催した。また、普及係による企画で、武蔵野美術大学教授・杉浦幸子氏を迎え、小学校3～6年生を対象に鑑賞と創作体験「子ども講座—みてみてつくろう—」を開催した。そのほかにも、担当学芸員によるギャラリートーク、管理係企画による、ピアニストの塩谷遥氏のプロムナード・コンサートを開催した。					
	小中学生向けのガイドとキャプション	年度末から年度初めにかけての企画展ということもあり、本展では特別に小中学生向けの解説ガイドや解説パネルの設置は行わなかったが、普及係企画で、小学校3～6年生対象の「子ども講座—みてみてつくろう—」を実施した。本子ども講座では、企画展会場での鑑賞の際に担当学芸員が解説したり質問を投げかけるなどのコーナーもあった。また創作体験は「キッチンリトグラフに挑戦!! バターとコーラで、みんなのまちを刷ってみよう!」というタイトルで実施され、食材で版画をつくるという意表を突く興味深い内容であった。参加者も熱心に取り組んでいた。					
その他特記事項	本展開催を機に、小野忠重遺族から、小野忠重旧蔵の新版画集団と造型版画協会の関連作品(約290点)、資料(約25点)の寄贈申し出をいただいている。						
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

「版画の青春 小野忠重と版画運動 ―激動の1930-40年代を版画に刻んだ若者たち―」 展 アンケート集計結果

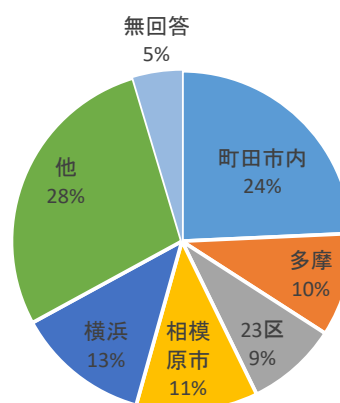
開催期間：2024年3月16日（土）～5月19日（日）

回答者数： 173 人（総入館者数：5,245 人 アンケート回収率： 3.3%）

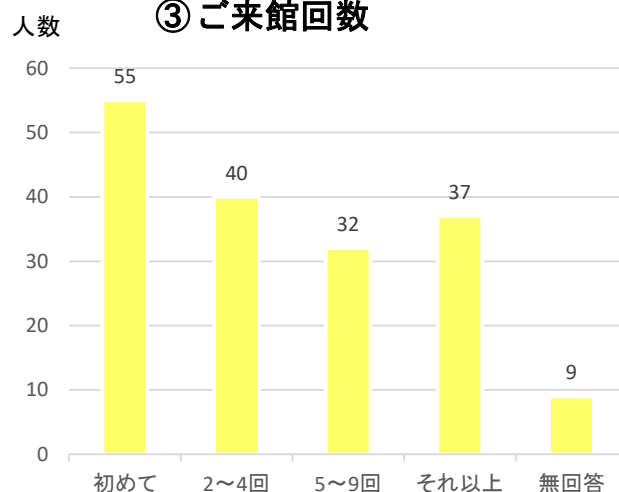
① 年齢層



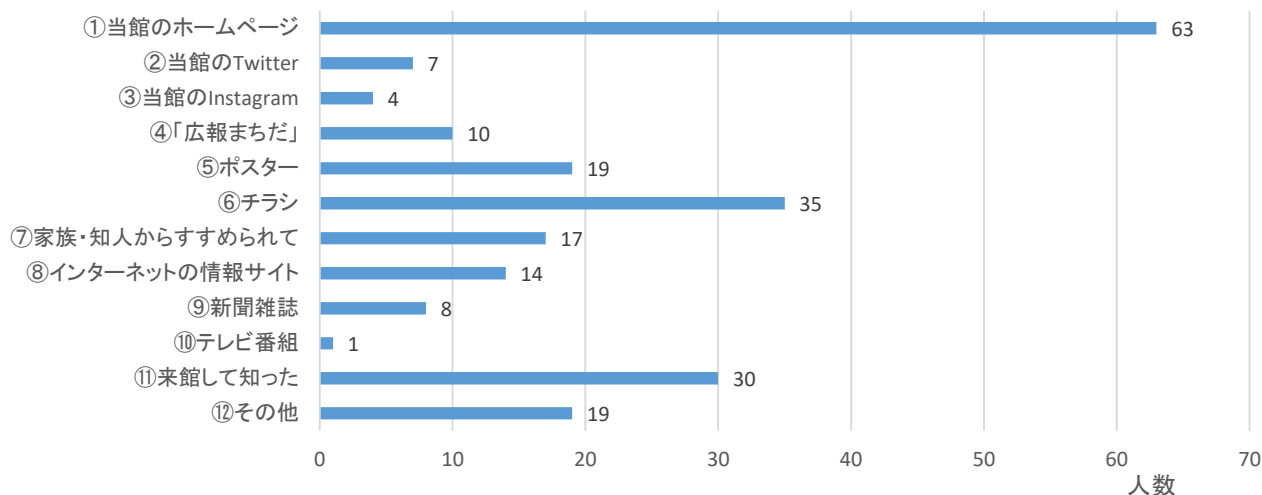
② お住まい



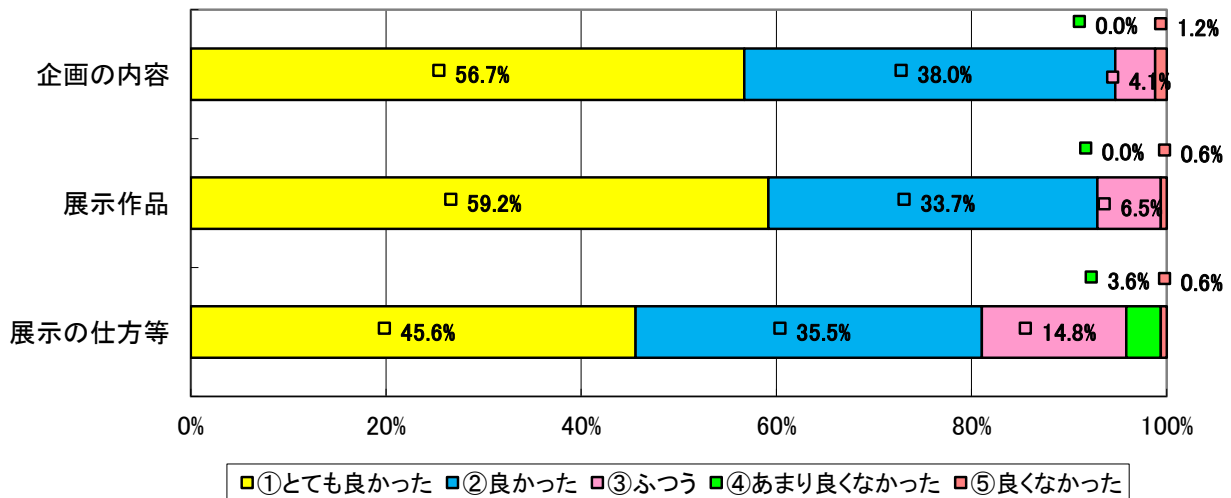
③ ご来館回数



④ 展覧会情報の入手



⑤ 回答者の満足度



⑥ 主なご意見・感想

- ◆各種の資料や作品が多く展示されていたが、まとめ方が工夫・研究されていて感心した。
- ◆内容がコアでレア、多くの人に見てほしい企画だった。
- ◆版画でここまで表現できると知って驚いた。面白かった。
- ◆版画の良さを再認識した。自分でも制作してみたい。
- ◆さまざまな作家がいて、伝えようとしていることを考えたり、好みの作品を探すことができて楽しかった。ポスターやチラシ、目録なども展示されていて時代背景なども伝わってきた。今後の企画も期待している。
- ◆ギャラリートークがよかった。
- ◆「版画の青春」というタイトルに相応しい、若者が版画に打ち込んでいる様子が作品に息づいていると感じた。
- ◆版画家について有名無名を問わず創作の軌跡が丁寧に取り上げられていて感動した。
- ◆近代以降の美術はわかりにくいと感じているが、勉強になった。
- ◆小野忠重と藤牧義夫に関心がある。今回はその周辺の作家たちの作品も観覧できて有難かった。
- ◆絵には疎いが楽しみやすい内容だった。またうかがう。
- ◆版画はいい。心が揺さぶられた。作者の気持ちが伝わってくる。
- ◆美術館を訪れることがなかったが、今回はすごく有意義な時間を過ごせた。次回の展示も楽しみ。
- ◆スタッフが優しかった。また行きたい。
- ◆いつ来ても素敵な美術館で、心が安らぐ。
- ◆町田(国際版画美術館)でしかできない企画展だった。 など

以下は要望等の意見

- ◇写真撮影は全面的に禁止してほしい。スマホで撮影しまくっている人がわずらわしい。
- ◇小野忠重作品ような黒っぽい作品は見ている人が写るなど見にくく、また撮影もうまくできないので、無反射ガラスの額で展示してほしい。
- ◇動線が分かりにくかった。
- ◇年間パスポートを発行してほしい。
- ◇シルバーデーでも半券がほしい。 など

2024年度・普及事業 2024年4月～9月

1 版画講座

版画工房・アトリエにて開催される版画の講習会。 様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的にしています。
子どもを対象にした講座では、版画美術館ならではの楽しい制作体験ができるよう工夫を重ねています。

No	事業名	対象	概 要（敬称略）	実施日程	会場	定員	参加延人数	うち小中学生	参加費
1	銅版画一日教室①	一般 （高校生以上）	版画の基本的な制作を一日で体験する。初心者から参加可。12×16cmの銅版を用い、ドライポイント技法で作品を制作。下絵は各受講生が持参。様々な方法で描きこむことにより深みのある作品作りを目指す。講師：馬場知子（版画家）	6/7(金) 10:30～16:30	版画工房	10人	10人	—	3,000円
2	銅版画一日教室②			6/8(土) 10:30～16:30	版画工房	10人	9人	—	3,000円
3	リトグラフー日教室①	一般 （高校生以上）	各自用意した下絵をもとに、単色のリトグラフ作品を制作する。初心者から参加可。受講生は講師のアドバイスを受けつつ、様々な描画材を使ってアルミ版に描き込むことで、リトグラフならではの表現を体験する。講師：小森琢己（版画家）	9/27(金) 11:00～16:00	版画工房	8人	—	—	3,000円
4	リトグラフー日教室②			9/28(土) 11:00～16:00	版画工房	8人	—	—	3,000円
5	子ども講座① 「1枚だけの版画、水彩モノタイプ」	小学生と保護者	アーティストを講師に招き、美術館で制作を楽しむ。アクリル板に水彩絵の具で描き、プレス機で印刷する「水彩モノタイプ」という版画技法で色鮮やかな多色刷り作品を制作。講師：常田泰由（東京造形大学造形学部美術学科助教）	5/4(土)	アトリエ	16人	14人（7組）	7人	1,000円（1組2,000円）
6	夏期子ども講座① 「どうぶつたちのスポーツ大会」	小学3～6年生	東京学芸大学の学生ボランティア15人と指導教官が企画・指導をおこなう。受講生が持参した下絵をスクリーンプリントの技法で紙とTシャツに印刷。今年はパリオリンピックにちなみ、「どんな動物がどんなスポーツをするかな？」と想像を膨らませた下絵を持参してもらった。背景（グラデーション刷り）と動物の主版（黒インク）の2版を使用。講座終了後、子どもたちの作品と指導にあたった学生の版画作品を市民展示室で展示した。講師：清野泰之（東京学芸大学芸術・スポーツ科学系教授）	7/27(土) 10:30～15:30	アトリエ 版画工房	15人	14人	14人	2,000円
7	夏期子ども講座② 「どうぶつたちのスポーツ大会」			7/28(日) 10:30～15:30	アトリエ 版画工房	15人	15人	15人	2,000円

2 学校教育への協力

町田市内の学校を中心に、美術部の体験学習や学校単位での団体鑑賞、出張授業などをおこなっています。
版画技法について教員からの問い合わせに答えたり、教員研修会への講師紹介・道具の貸出しなどもおこなっています。

No	事業名	対象	概 要	実施日程	会場	参加人数	参加延人数	うち小中学生	参加費
1	版画講座	町田市立山崎中学校 美術部	ドライポイントプレートを使用した凹版の制作を行う。版の特性を活かし、点描や曲線で描いたり表面を1層めくり取ったりして幅広い表現を楽しんだ。刷るインクは黒、赤、青、緑から各自が選択し、プレス機を使って紙だけではなく布バッグにも印刷した。講師：当館学芸員	8/2(金) 10:00～16:00	版画工房	11人	—	11人	500円
2	教員研修会等への協力	町田市中学校教育研究会 美術部	町田市中学校教育研究会美術部夏季実技研修会実施にあたり、内容・講師に関する助言、施設・設備・備品利用についての協力をおこなった。専門的な道具や薬品、プレス機がなくても手軽にリトグラフの技法を楽しめる、「キッチンリトグラフ」の制作体験を実施。A5程度の薄い樹脂板にアルミホイルを巻き付け、チョコレートやダーマトグラフで描画し、コーラを使って製版をした後、版画用油性インクで印刷（銅版画プレス機およびスプーンを使った刷り）。制作後の鑑賞会では、身近なものを使って短時間に制作できる面白さや、刷りの難しさなど感想を伝え合った。講師：木村友香（版画家）	8/23(金) 9:30～13:00	版画工房	9人	—	—	—

3 他機関への協力

美術館や大学からの依頼を受けて、調査・研究活動に協力します。

No	事業名	協力先	概 要	実施日程	会場				
1	「変奏と自立 -現代日本の画家たちの版画」展 関連ワークショップ	独立行政法人 国際交流基金	国際交流基金所蔵作品による世界巡回の展覧会の関連催事として、インドネシアで開催されるワークショップの企画に協力した。キッチンリトグラフの体験制作を企画し、バンドンの美術大学の学生がボランティアとして参加。現地の高校生を対象とした回と、一般を対象とした回が各1回開催された。	7/26(金)、27(土)	インドネシア、バンドン Galeri Pusat Kebudayaan	—	—	—	—

4 作品展

講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。 作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。
1月の小中学校作品展では、美術館を会場とし美術館職員がかかわることで、より質の高い展示を目指しています。

No	事業名	対象	概 要	会 期	会場	出品状況	来場者数	うち小中学生	観覧料
1	夏期子ども講座作品展 「どうぶつたちのスポーツ大会展」	どなたでも	夏期子ども講座(内容裏面参照)の受講生と指導をおこなった東京学芸大学の学生による作品展。講座で制作した版画のほか、下絵用紙や制作についての感想文も展示。講座の様子をまとめた動画や制作手順の解説パネルを設置した。来場者から「展示中のTシャツが欲しい」という感想を頂くなど、好評であった。	8/6(火)～10(土) ＜5日間＞	市民展示室	受講生29人 (58点) 大学生12人 (13点)	198人	50人 (推計)	無料

5 イベント、コンサート

気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

No	事業名	対象	概 要 (敬称略)	実施日程	会場	定員	参加人数	うち小中学生	参加費
1	幻想採取 ～コラージュで作るイメージの標本匣～	中学生～大学生・専門学校生	『幻想のフラヌール 版画家たちの夢・現・幻』展関連イベント 企画展出品作家の池田俊彦氏を講師に迎え、「自分でも気付かない、頭の中の幻想をかたちにしよう」と、科学雑誌などの切り抜きをコラージュし、A4大2mm厚の亚克力板2枚で挟んだ作品を制作。中学1年生から大学・専門学校生までの幅広い年代の若者が参加した。講師の積極的な会話に刺激を受け、それぞれの世界観をもった作品が完成した。講座の最後に作品を鑑賞し、制作意図を発表する時間を持った。	8/24(土) 13:30～16:00	アトリエ	12人	9人	2人	500円
2	プロムナード・コンサートⅠ 「ピアノの音色で蘇る記憶」	どなたでも	「版画の青春 小野忠重と版画運動」展関連催事 塩谷遥(ピアノ) ラフマニノフ:「音の絵」より作品39-8 ニ短調、スクリヤービン:「2つの詩曲」より 作品32-1嬰へ長調 ほか	4/27(土) ①13:00 ②15:00 各30分	エントランスホール	①87人 ②87人	①83名 ②70名	①2人 ②5人	無料
3	プロムナード・コンサートⅡ 「音で誘う幻想的な廻廊へ」	どなたでも	「幻想のフラヌール-版画家たちの夢・現・幻」展関連催事 岩谷明石(ヴァイオリン)、永易理恵(ピアノ) ドビュッシー:「ベルガマスク組曲」より「月の光」、.ヴァージャ・アザラシヴィリ:「ノクターン」ほか	7/14(日) ①13:00 ②15:00 各30分	エントランスホール	①100人 ②100人	①73人 ②74人	①4人 ②3人	無料
4	プロムナード・コンサートⅢ 「煌めきの奏者たち」	どなたでも	「両大戦間のモダニズム:1918-1939 煌めきと戸惑いの時代」関連催事 町田市内の大学で音楽を学ぶ学生による声楽、器楽。 ①桜美林大学芸術文化学群音楽専修 ビゼー:オペラ「カルメン」より “闘牛士の歌”、ムソルグスキー(松岡邦忠編曲)「展覧会の絵」より プロムナード～古城・牛車～キエフの大門ほか ②玉川大学芸術学部音楽学科 シューマン:ピアノソナタへ短調 作品14 第1楽章、フェルディナンド・ダヴィッド:バス・トロンボーンのための協奏曲変ロ長調 op.4、グラスノフ:サクソフォン協奏曲	9/21(土) ①13:00 ②15:00 各30分	エントランスホール	①100人 ②100人	—	—	無料

6 版画工房・アトリエの一般開放

No	事業名	対象	概 要	実施日数	会場	利用者数	使用料
1	版画工房・アトリエの一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供。 各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できる。 毎週木曜、日曜、月2回の火曜に実施。 9時30分～17時30分(9時30分～13時30分と13時30分～17時30分) 定員:銅版画 10人 リトグラフ 6人 スクリーンプリント 8人 木版画 2人	年間124回実施	＜版画工房＞ 銅版画 リトグラフ ＜アトリエ＞ スクリーンプリント 木版画	4～8月(52回) 1499人 ＜内訳＞ 銅版画 666人 リトグラフ 366人 スクリーンプリント 318人 木版画 149人	半日: 1,250円 一日: 2,500円

国際版画美術館 2025（令和7）年度 展示計画

展覧会		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
企画 展示室 1,2	企画展：日本の版画史（仮）	3/20～6/15 【76日間】										（仮）国際工芸 美術館工事のため 休室			休室
	企画展：収蔵品企画展 1						7/5～9/21 【68日間】								
	小中学校作品展：普及係											1/16 ～2/23			
常設 展示室	特集展示Ⅰ期	3/14～6/15 【81日間】										（仮）国際工芸美術館工事のため 休室			
	特集展示Ⅱ期（※内容は新収蔵作品展）						6/20～9/21 【81日間】								

2025年度 町田市立国際版画美術館 普及係 事業予定

		定員	参加費(予定)
◆版画講座	創作講座 木版画(10日間)	10人	¥30,000
	銅版画一日教室 ①	10人	¥3,000
	銅版画一日教室 ②	10人	¥3,000
	リトグラフ一日教室 ①	8人	¥3,000
	リトグラフ一日教室 ②	8人	¥3,000
	リトグラフ一日教室 ③	8人	¥3,000
	リトグラフ一日教室 ④	8人	¥3,000
	木版画一日教室<年賀状> ①	16人	¥3,000
	木版画一日教室<年賀状> ②	16人	¥3,000
◆子ども講座	子ども講座①(1日間)	16人	¥1,000
	子ども講座②(1日間)	16人	¥1,000
	夏期子ども講座①(講座1日間+作品展示)	15人	¥2,000
	夏期子ども講座②(講座1日間+作品展示)	15人	¥2,000

		参加者数	参加費
◆学校対象事業	版画講座 年5校程度	内容による	
	出張授業 年2回程度	内容による	

		来場者数	入場料
◆展 示	夏期子ども講座作品展	150人程度	無料
	第39回町田市公立小中学校作品展	15000人程度	無料

		利用者数	使用料
◆版画工房・アトリエの一般開放	年間122回	4000人程度	¥1,250

		来場者数	参加費
◆その他	プロムナードコンサート 年間2回	各回200人程度	無料
	ゆうゆう版画美術館まつり(友の会と共催) 2日間	5000人程度	無料